

第 37 回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和 8 年 7 月 28 日（火）15 時から 17 時まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員 7 人・事務局 9 人・計 16 人
- 傍聴者 無
- 次第
 1. 開会
 2. 市民憲章斉唱
 3. 挨拶（会長）
 4. 挨拶（図書館長）
 5. 議事
 - （1）令和 8 年度大津市立図書館事業概要について
 - （2）「大津市図書館事業計画」にかかる令和 7 年度事業評価について
 6. 閉会

- 会議の概要（発言内容については要旨を記載）

◎議事

（議題 1 令和 8 年度大津市立図書館事業概要について）

・事務局説明

会 長 電子図書の「マルチライセンス型のコンテンツ」とはどういったものか、改めて説明をお願いします。

事務局 マルチライセンス型の特徴は、同じ電子書籍を複数の方が同時に利用できるものである。例えば、学校では、クラス全員や複数の児童・生徒が同時に同じ電子書籍を利用し、朝読書や調べ学習において活用いただいている。

委 員 資料 1 の 11 ページ「団体貸出冊数の推移」について、令和 5 年度に増加しているが、その理由は何か。

事務局 団体貸出の周知や利用促進に努め、利用団体が増えたことにより令和 5 年度に増加している。令和 6 年度以降は小学校のクラス数の増減や保育所や児童クラブ等の利用によって数値が上下している。

委 員 図書購入費の推移について、令和 2 年度から電子図書を導入されているが、導入以降も紙の資料費とは別に電子図書経費を確保され、令和 4 年度からは紙の本の決算額も大幅に増額となっている。他市では資料費の減額を余儀なくされている中、それ以降も維持されていることは、図書の充実に尽力されていることが伺えるが、その背景を教えてほしい。

事務局 電子図書館についてはコロナ禍における国の交付金を活用して導入したものであるが、本市では紙の図書も非常に重要であると考えており、紙と電子それぞれの予算を確実に確保し、図書の充実を図っている。

委 員 7 ページにおいて、市民一人当たりの図書購入費が 129.93 円となっているが、数

年前の中核市の平均で 170 円程度であったように記憶している。平均を下回っていることについてどのように捉えているか。

事務局 一人当たりの図書購入費について、物価高騰等に伴い、なんとか図書購入費を維持もしくは上げていきたいと考えている。なお、数年前の数値であるが中核市 62 市のうち蔵書数、貸出冊数とも、中間あたりの水準である。

委 員 大津市立図書館本館は昭和 56 年の設置からかなりの年月が経過している。市役所本庁舎の整備計画が進んでいるが、新庁舎の中に図書館をつくと良いのではと考えるがそのような構想は出なかったのか。

事務局 現在、図書館をはじめ多くの本市公共施設の老朽化が顕著になってきている。本市全体の中で公共施設の今後の在り方について検討を重ねているところである。

委 員 学校現場においては、本を借りている児童・生徒と借りていないものの差が大きい。そもそも本を読まない、利用者カードを持っていない状況があるが、学校と図書館が連携協力し、利用者カードを作ることによって移動図書館車で学校に来てもらえた時に本を借りる子どもたちが増えてきた。今後も学校と図書館が連携し、本に親しむ機会をつくっていききたい。

〔議題 2 「大津市図書館事業計画」にかかる令和 7 年度事業評価について〕

活動目標①市民の学びに応える図書館

・事務局説明

委 員 館内レイアウトの工夫や、自己研鑽として各種研修に積極的に参加し、精一杯色々なことに取り組まれている。北図書館における「館内外研修」とはどのような研修か。

事務局 本館が中心となって開催する 4 館合同研修会、聴覚障害者の方とのコミュニケーション手法や情報セキュリティに関する研修などに参加している。加えて滋賀県立図書館主催の研修にも積極的に参加している。

会 長 全館とも図書館サービスの向上に努められたが、貸出冊数を主な指標として判断し、達成率が 100%を超えなかったため、全館とも自己評価が B となっている。様々な取組により努力いただいているが、ここは外部評価としても B と考えるがどうか。

委 員 （異議なし）

活動目標②だれもが利用できる図書館

・事務局説明

委 員 石山駅に設置されているブックポストの利用状況はいかがか。可能であれば、移動図書館車が巡回するステーションにブックポストがあれば返却もスムーズだと考えるがどうか。

事務局 石山駅のブックポストは堅田駅西口の約 2 倍の利用がある。石山で 1 回あたりの回収で約 200 冊であり、大変多くの方にご利用いただいている。ブックポストの設置については、100 万円程度の経費がかかる。駐車スペースや雨対策、どこに設置

するのか等様々な考慮すべき課題がある。ブックポスト自体は利便性の高い有効なものだと考えている。

委員 以前は団体貸出において図書館司書の方がおすすめの図書を選書していただき、とても良いサービスだと感じていたが、ある時期から団体貸出利用団体で自分たちが選書するスタイルに変わったのはなぜか。

事務局 団体貸出利用団体に合ったものを利用団体職員で選んでいただいていると認識していた。図書館で選書して欲しいというご希望があれば、可能な限り対応したい。

会長 「だれもが利用できる図書館」という観点において、図書館事業概要の 19 ページの電子図書年齢別貸出点数をみると、小学校高学年に次いで 60 代が多い。電子図書は年齢が高い方のご利用はハードルが高いように思いがちだが、これだけ多くの方にご利用いただいている実績から、電子図書のこういった面がこの世代に魅力的なのか分析し、利用が少ない年代にどのように浸透させていくのかをぜひ検討してもらいたい。

会長 多文化サービスという視点があまり見受けられないように思う。日本国籍をお持ちでない方や日本語が母語でない方などもおられるが、そのような方に対してのサービスを充実してもらいたい。資料に記載はないものの、実際に取り組まれていることがあれば教えてほしい。

事務局 本館では日本語を母語とされない方のご利用は少ないものの、日本語を勉強されている方やそのご家族の方の利用や、日本語を勉強できる図書のリクエストや、就業や資格取得のためのテキストをご希望された事例があった。どのようなものであればご希望に沿ったわかりやすいテキストなのか、個別にお話しをお伺いしたうえで資料を検討し提供した実績がある。また外国絵本や一般書籍の収集も必要であると考えており、予算の範囲内で購入している。しかしニーズの把握が不十分な現状であるので、多文化サービスをご希望される方のご意見を直接お伺いする機会を設けつつ、資料の整備充実に努めていきたい。

会長 どのような多文化サービスを求められているのかわかりづらいが、例えば国際協会のような外部団体や市役所の関係部署、また学校や保育現場等と連携しながら誰もが利用できる図書館サービスの充実・開拓を検討いただきたい。

委員 利用者を増やすために、小中学校への団体貸出のほかにも、来館が困難な高齢の方へのサービスとして、老人福祉センターへの出前おはなし会を開催するなど、来館が困難な方への具体的なアプローチにも取り組まれている。北図書館が行った北老人福祉センターへの紙芝居による出前おはなし会の反響はどのようなものだったか。

事務局 直接アンケートはとっていないものの、利用者、職員からは非常に好評であった。その際、北図書館の利用についてもあわせて、積極的に周知を行った。広く市民に図書館をより利用してもらえるよう、このような活動を地道に行っていきたい。

委員 現在、子ども向けのおはなし会として活動されている団体の中には、高齢者向けのおはなし会もしてみたいと思っておられるところもあるかもしれない。図書館が施設と繋いでいただけると、より多くの方に図書館を利用していただけるのでは

ないか。

会 長 指標の来館者においては、様々な館外事業にも取り組まれ多くの市民に図書館サービスをご利用いただいているが、これらは来館者数として含まれずに評価を行っている。和邇図書館の来館者数は目標値に到達していないが、来館者数と図書館利用促進につながる事業回数を指標として、来館が困難な方への積極的な取組や利用促進のための努力を惜しまず取り組まれた実績を考慮すると総合評価としてはAが妥当と考えるがどうか。

委 員 （異議なし）

活動目標③魅力あふれるまちづくりを支える図書館

・事務局説明

会 長 充実した資料という観点においては、郷土資料と並んで行政資料をしっかり図書館で収集していかなければならないところだが、一般的に流通している図書については、ある程度充実していても、市役所で発行している報告書やチラシ等が図書館に到達していない、あるいは担当部署が図書館に送付しておかなければならないという意識が欠如している場合がある。図書館から行政資料を収集している旨、市役所の各部署に周知等されているか。

事務局 年に1回、市職員が共通で利用しているポータルサイトを通じて、行政資料を発行された場合は図書館への資料提供をお願いしている。また、様々な施策や図書館との連携事業などにおいてはこちらから資料を取り寄せる場合もある。また近年では経費節減のため電子データのみでしか行政資料を発行していないという部署もあり、その場合は本市電子図書館に掲載している。紙媒体でないとなんとてもらえないという事情もあるため、図書館において印刷している場合もある。

会 長 今後も行政資料に抜けがないかを確認しながら継続的にしっかりと収集してほしい。少なくとも大津市内で発行された行政資料は大津市の図書館で収集していく、まちづくりを支える図書館としてこれらの資料を伝えていくという使命を担っていること意識し、取組を続けてほしい。

委 員 以前「おとなのための図書館講座」に参加した際、関連する資料を多く展示され、会場を後にされる参加者の多くの方が本を手にとっておられる様子に驚き、大変魅力的な取組をされていると感じた。関連する展示図書の貸出手続きについては、もっとわかりやすくしてはどうか。

事務局 講座開催時に、関連する展示図書を借りられる際は1階カウンターで手続きをする旨参加者にご案内し、関連図書を展示している場所にも同内容の掲示をさせていただいているが、さらに案内方法を工夫したい。

会 長 実績が目標を上回っているため全館ともAの自己評価であるが、総合的に評価し、外部評価はAが妥当と考えるがどうか。

委 員 （異議なし）

活動目標④子どもの育ちを支援する図書館

・事務局説明

- 委員 和邇図書館の「読書記録ノート」とは具体的にどういったものか。また、記録はしないといけないものか。
- 事務局 絵本の読み聞かせをした際に子どもがどんな反応をしていたかや思い等を自由に記入できるものとなっている。
- 委員 幼稚園での子どもの様子や保護者からの話を聞いていると、最初の絵本との出会いがとても大きな意味があると考えます。読書に対する家庭の関心度には差がある。園でも図書の貸出を行っているが、借りたまま読まずにそのまま返却する家庭もあり、保護者の興味・関心に働きかけていきたいと思っている。保護者向けの出前講座をしているとのことだが、園にも来ていただけるのか教えてほしい。
- 事務局 出前講座の申込みはお気軽にご依頼いただけたらと思う。保護者や園の先生向けに読書の大切さやおすすめの絵本をお伝えしている。
- 委員 和邇図書館は身近な存在で、にじっこで遊んだあとに近くにある和邇図書館に行き、本を借りてこられる方も多い。絵本バッグを持って行って読まなくてもとりあえず借りる、本を借りてくることが楽しく喜びを感じている子どもも多い。他市では、学校や園から絵本バッグを子どもたちに渡し「このバッグで借りて返すんだよ」と借りる返すという体験から本が身近になっていく取組を見たことがある。和邇図書館エリアでは全ての保育園、幼稚園、小学校に移動図書館車が来てくれ、本を借りることが必ずできるということが大きい。北図書館エリアでは団体貸出を多くご利用いただいているが、利用していない小中学校はあるのか。
- 事務局 利用されていない学校はいくつかはあるが、定期的な利用をされていない学校については依頼に応じて団体貸出を行っている。
- 委員 団体貸出を知らない学校もあったと聞いたことがあるので、大津市内の全ての幼稚園や小中学校等に団体貸出のご案内をしていただきたいと思います。
- 事務局 毎年、4月当初に公立の小中学校、幼稚園や保育園には図書館の利用案内を配布し、その中で団体貸出や出前講座、学校図書館支援や図書館見学のご案内等を含め周知を行っているところである。しかし、学校の状況によって浸透度合いは様々である。
- 委員 校長会等でも団体貸出について説明してもらっているが、利用が少ない学校もある。
- 委員 幼稚園では「図書充実費」として各園で本を購入できる予算があり、年々その額が少なくなってきた。本を何度も修理して読んでいるため、団体貸出の利用は非常に有難い。団体貸出は図書館で選書して持ってきていただけるため、子どもたちはもちろん、職員にとっても勉強になっている。先日「日本むかしばなし」のある本を読ませていただいたが、最近は日本むかしばなしに触れる機会が減少しているので非常に良い機会だと思っているため、ぜひ他園へも発信していきたい。
- 会長 指標に「児童図書貸出冊数」とあるが、この指標の対象年代と利用者としての年代（0 から 18 歳）に齟齬がないかどうかを確認しておく必要がある。共働きの世帯が増えており、平日の午前中に保護者が子どもを連れて来館するという光景は 10

年前とは様変わりし、来館者数の変動があると思う。曜日・時間・年代別来館者数データ等进行分析しながらどのようなアプローチができるのか、児童サービスの充実を進めてもらいたい。

全館で様々な取組に精力的に取り組んでいるところは見受けられるが、外部評価 A とは「目標が達成されて十分な成果を上げた」ということが基準となるため、総合的には B 評価と考えるがどうか。

委 員 数値で考えると B と考えるが、取組内容の充実を鑑みると A に近い B、という認識でよいのではないか。

会 長 外部評価は B でよろしいか。

委 員 （異議なし）

活動目標⑥市民とともにつくる図書館

委 員 学生ボランティアの受入れを通して図書館職員も気づきや学びがあるとのことで感謝している。地域や利用者、図書館職員と関わらせていただく機会を提供してもらい学生の貴重な経験、学びとなっておりありがたいと思う。

会 長 大津市の人口が 34 万人あまりのところ、実利用者数として年間 1 回以上本を借りた方が 28,855 人ということで 10 人に 1 人に満たない数値ということは、事実として受け止めないといけない。この数値を大幅に上げるのは難しい部分もあると思うが、できるだけ実利用者数に結び付けていくための工夫は必要である。一方で、貸出数や実利用者数といった数値により表して評価できるものに対し、一方で数値化して表せない委員ご発言のこのような取組も同様に大切である。行政サービスの一つとして図書館があり、市民とともにつくる図書館として様々な取組をしてもらっている。目標を上回っており全館とも A であり、外部評価としては A で評価したいがよろしいか。

委 員 （異議なし）

会 長 最後に、このメンバーで図書館協議会を行うのは今日が最後となる。最後に意見等あればお願いしたい。

委 員 2 期務めさせていただき、周りの人に意見を聞く機会もあった。「学生が勉強する場所を提供してほしい」という意見が多かった。また他市の図書館を見ていると「居場所としての図書館」という側面から、観葉植物を置いたりコーヒーを飲めるスペースが設けられていたり、「居場所」としての要素を取り入れている市もある。本を読む、借りるための図書館というスタンダードな形で、次々に新刊本を揃えるのではなく幅広く収集する図書館が良いという意見は特に図書館を利用されている方からは多く聞く。しかし、利用者層の幅を広げる、市民全体を対象として考えると、「居場所としての図書館」というニーズはあるということを伝えたい。現状の施設規模や人員で出来ることを精一杯取り組んでいただいているが、人口規模 34 万人の図書館としては、広さを大きくしてもらえよう図書館を新築してもらうことがベストだが、図書館をもっと充実させるための予算を確保する働き

かけを市民全体でできないかという思いを持ち続けている。

事務局 図書館における居場所づくりの重要性は、研修や会議の際にも話しがあり、職員も意識しているところである。例えば、様々な講座の開催や、暑さが続くこの季節は図書館をクーリングシェルターとして広く市民に開放し、気軽に来館でき心地良く過ごせる環境づくりに取り組んでいる。今後はゆっくり本を読んでもいただけるようソファを増やしたり、図書館からも外へ行き、少しでも多くの方に本に親んでもいただけるよう、また、来館していただけるよう取り組んでいきたい。

委員 一つの活動目標の中で評価指標が複数、例えば2項目ある場合など、仮に一つが目標を達成しているが、もう一つがあと一步で達成できなかった場合で評価Bとなるというのは若干の疑問も残る。例えば、来館者数では、全域サービスという観点から、来館者数に限定するのではなく、機動力を生かした移動図書館等による館外活動により利用された人数も全域サービスとして含めるなど、次年度に向けて様々な取組も考慮しても良いのではないかな。

会長 図書館においては評価基準において具体的な数値を用いて自動的に決まってしまうという妥当性については、今後検討してもらいたい。